

4 段階評価： 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営 ビジョン	「幸せ」いっぱい 児童が「幸せ」	みんなの学校 教師が「幸せ」	保護者・地域が「幸せ」
--------------	---------------------	-------------------	-------------

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善対策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
知 育	重点目標： 学力向上の推進 手段： 1 一人一人に応じたきめ 細かな指導の充実と「わか る・できる授業」づくり	1 について ○複式解消の成果もあり、児童の学力向上につながった。また、担任 の負担軽減にもなった。 ●児童が苦手とする単元に関して、教材研究を行い、さらに細かい個 別指導を行う必要がある。 ○タブレットの活用により、児童の意欲向上が図れた。さらなる学力 向上をめざして、スキルアップをする時間も必要だと感じた。また、 週 1 回のタブレット持ち帰りが定着してきたのはよかった。 ●フロンティアタイムでは、時間もなかなか取れない上に、問題集の 問題を解かせるだけの時間となってしまったため、細かな取組の計 画が必要であると考えられる。 ○ICT 支援員との連携がしっかりとれ、授業を行っていただくことに よって、情報活用能力及び情報モラルの理解向上につながった。 ●朝の会と重なる PC スキルアップの時間がなかなか取れないため、 次年度校時程の見直しが必要である。 ○スマイルネクストを宿題で活用することができた。	3	3	1 について ○少人数の学校なので、個別指導がしっ かりできていると思う。
	2 小中一貫教育の推進と 一人 1 研究授業を通じた授 業改善	2 について ○一人 1 授業を行うことで、お互いの授業を参観することができ、「ひ なたの学び」について考えることができた。 ●主題研究の長期的な計画が示されず、全体として研究の深まりがあ まりなかった。 ●授業参観日の期間が短く、無理に授業を行わなければならない状況 があったので、もう少し期間を長くして取り組んでもよかった。 ●中々、他校の授業を参観することができなかった。			
	3 キャリア教育の充実	3 について ○幸っこフェスタにおいて、地域の人材を活用したたみ製作活動や 地域の方々、市議会議員、SVC の方、警察の方等をおよびして、 熟議（話し合い）を行い、今後の未来について考えることができた。 ●地域人材活用について、もう少しいろいろなことを知っておく必要 があった。 ○かおる幼稚園との連携を図ることができた。 ●コスモス科でのキャリア教育はかおる幼稚園訪問だけになっている ので、検討も必要である。			3 について ●お金や政治に関する学習時間がないよ うな気がする。日本国民としての義務、 責任を学ばせる学習もしてもらいた い。
	4 読書活動の推進	4 について ○週 1 の図書館協力員の来校により、図書室整備を行うことができ た。 ○定期的に読み聞かせが行われ、本への意欲、読書の意欲が高まった。 また、中学生とのオンライン読み聞かせも少しずつ定着してきてい る。 ●ノーメディア・読書量アップ週間を計画的に行えたが、改善策を提 示することができなかった。ノーメディアの週間に合わせて体力ア ップ週間をするのもいいかなと思った。 ●家庭で親子がより積極的に読書をするための方策を考える必要が ある。まずは保護者や先生が読む姿を児童に見せて、一緒に読む機 会を設定するとよい。			4 について ○ノーメディア・読書アップ週間は良か ったと思う。しかし、子どもからの話 では分からないことがあったので、参 観日などで説明等があるともっと一緒 に取り組めたと思います。 ●読書、メディアに関しては、学校だけ の問題ではなく、家庭環境への領域が 多いと思うので、これから先、みんな で考えていく必要があると思う。
	5 家庭学習の充実	5 について ○担任を中心に課題の確実な見届けを行い、やり直しを行わせた。ま た個人に応じた指導を繰り返し行うことで、定着が少しずつ図れ た。 ●個人差があるため、宿題の量などを調整する必要があった。個人差 に対応した課題作成も必要と思うが、なかなか難しい状況がある。 ●家庭学習の手引きを、4 月の懇談で知らせることができたが、なか なか浸透せず、振り返りが活かされなかった。			
徳 育	重点目標： 豊かな心の教育の推進 手段： 1 西小林中校区のきまり定 着 100%と集団規律の徹 底	1 について ○学校生活における児童の活動の中で、きまりなどが曖昧に理解して 行動する部分が多かったが、指導を行うことで少しずつ改善されて きている。 ●常時指導において、教師がもう少し意識した指導を行い、児童にも 意識した行動をさせたい。 ●共通実践事項において、学校の規則などまだ検討の必要がある内容 があるので、今後修正していきたい。	3	3	
	2 道徳教育の充実	2 について ○道徳の資料について整理することで、資料の精選ができた。			

		<p>●前年度の道徳研修が活かされず、実践はなかなかできなかったの で、再度、研修で培った内容の見直しを行い、今後の実践に結び付 けていきたい。</p> <p>○7月の参観日において、授業を行うことで、人権感覚を意識させる ことができた。</p>			
	3 朝のボランティア活動の 活性化	<p>3について</p> <p>○児童が朝のボランティアや花の水やり等を進んで行うことで、奉仕 の精神を培うことができている。</p> <p>●教職員への啓発も必要である。</p>			3について ○児童が朝早くからボランティア活動を 積極的に取り組んでいたと思いまし た。
	4 みどりの少年団活動の活 性化	<p>4について</p> <p>○卒業式に向けた花の栽培と世話を児童が丁寧に行っている姿がよ く見られる。</p> <p>●休日の花の水やり等が課題である。</p> <p>○生活科の時間を活用し、栽培活動ができた。</p> <p>○さつまいも栽培を教室前にしたことで観察や世話をする意識をも つようになった。</p> <p>●みどりの少年団としての活動（学校外での募金活動など）がなかな かできない現状がある。</p>	3	3	
	5 自信と達成感の涵養	<p>5について</p> <p>○練習をしっかりと行い、多くの会において全員で披露することで、大 きな自信につながっていると感じる。響座の今村さんの指導に大変 感謝している。</p> <p>●練習時間の確保が課題である。時間をうまく設定する必要がある。</p> <p>○長期休業の作品募集を選定し、積極的に応募することができた。</p> <p>●宮日の作品募集には応募することができなかった。さらに児童の作 文を書く力をつける必要がある。</p>			5について ○今年度は、太鼓の発表の場が多く、良 かったと思う。 <p>○みんながひとつになり、目標に向けて 頑張っていた。1年生も初めてなの によく頑張っていた。</p> <p>○作品募集に応えるには、あまりにも人 数が少なく、先生も児童も大変である と思うが、幸ヶ丘小学校はよく取り組 んでいると思う。</p>
	6 教育相談の充実	<p>6について</p> <p>○月1回のすこやか委員会の実施により、児童理解が全職員で共有 し、対応することができた。</p> <p>○児童数が少ない分、児童一人一人のことを職員間でいつも話すこと ができている。</p> <p>○保護者と地域の方々と学校が一緒に児童を見守っている環境があ るので、大きな問題は起こらない状況がある。今後も続けていきた い。</p>			
体 育	<p>重点目標： 健やかな身体の育成</p> <p>手段： 1 個に応じた体力向上の推 進</p>	<p>1について</p> <p>○体力テスト向上のためのカードや場づくりを行うことで、自分たち で目標を立てて取り組み、意識の向上につながった。</p> <p>○昼休みの遊びは有意義だと思う。</p> <p>●学校だけでなく、家庭でも取り組める活動を提案する必要があると 考える。</p>			1について ○ノーメディア週間の時に、体力アップ 等をするのは良いと思う。
	2 外遊びの推奨	<p>2について</p> <p>○みんなで遊びたいものを自分たちで決めて、一緒に仲良く楽しむこ とができている。</p> <p>●遊ぶ内容が同じになってしまうことがあるので、教師側から遊び方 の提案もしてみたい。</p>			2について ○転校生の児童が転校当時は仲良く遊 べるか心配だったが、子ども全員が遊 べる雰囲気にもっていつているのを感じ る。
	3 基本的な生活習慣の定着	<p>3について</p> <p>○学校保健委員会では、栄養教諭を講師として招いて学童期の食事と 健康についてお話していただき、保護者にも啓発を行う良い機会に なった。</p> <p>○学級活動の時間を使って感染症予防のための話を全学年に行い、手 洗いや消毒、換気、抵抗力を高めることの大切さを児童に啓発する ことができた。</p> <p>●ノーメディア週間をする意味など理解させることが必要だと思っ た。</p> <p>●感染症対策として、養護教諭を中心に換気の呼びかけをもっとすべ きであった。寒い時期は今後も継続していきたい。</p>	3	3	3について ●感染症に関して、保護者の方も気にか けていないことを感じる。学校だけ では難しいと思う。
	4 肥満率の解消	<p>4について</p> <p>○学校保健委員会で栄養教諭におやつを取り方について話をしてい ただき、児童と保護者が一緒に食生活を見直す機会となった。</p> <p>○全校集会や学級活動の時間、掲示物等を通して健康への意識づけを 行うことができた。</p>			
	5 無欠席年間日数	<p>5について</p> <p>●全員登校の日は少ない現状があるため、健康に生活するための規則 正しい生活について継続的に啓発していく必要がある。</p>			
	6 むし歯治療率向上	<p>6について</p> <p>○健康診断後はすみやかに治療勧告ができた。さらに、保護者がすぐ に児童を病院に受診してもらったおかげで、むし歯治療率は100 %だった。</p> <p>○全学年に歯みがき指導を行い、歯と口の健康についての意識を高め た。</p> <p>○フッ化物洗口も毎週定期的の実施できた。</p>			

食育	重点目標： 望ましい食習慣の育成 手段： 1 給食指導の充実	1について ○無理な時は、残すことができるというのは、子ども達にも安心感がある。 ○給食時間に栄養教諭を招き、食事のマナーをはじめ、箸の持ち方の指導を行い、意識づけることができた。 ●食事のマナーの指導については、給食時間ではなかなか時間の確保が難しいので、授業時間を使って、もっと詳しく指導してほしいと感じた。 ●箸の持ち方がまだ上手にできていない児童がみられるため、継続して指導、見守りを行う必要がある。 ○残食も年度当初と比べると減ってきている。	3	3	2について ●魚のつかみ取り大会は、PTA行事ですが、先生方が協力してくれているので、来ています。今後のあり方について話し合いをした方がよいと思う。 また、プール清掃の際の高圧洗浄機を購入するとよい。（すでに対応済）
	2 体験活動の充実	2について ○栽培活動は、積極的に行うことで、児童も興味関心をもって取り組むことができた。 ●栽培活動について少人数で毎年行うには結構な労力がかかるため、隔年または活動を精選して行うとよいのではないかと思います。 ●つかみ取り大会は、子ども達の一番の楽しみではあるが、準備の段階でプール掃除があり、その活動のためだけに行うのは負担であるので、今後検討していく必要があると考える。 ○栽培活動やPTAと連携した体験学習を通して、食への関心の向上に繋げることができた。 ●外部機関による食体験については、去年も同様のことを行っているため、今年度は実施を見送ったが、次年度は積極的に連携をし、食体験の充実を図っていきたいと考えている。			
	3 家庭との連携 (弁当の日の実施)	3について ○夏季休業中の食の贈り物は実施率100%だった。保護者の協力に感謝している。 ●弁当の日、食の贈り物が夏休みに実施されたが、実施後の掲示等、工夫が必要である。 ○保健だよりを通して家庭での望ましい食生活の啓発も健康と併せて行うことができた。			
その他	重点目標： 保護者や地域から信頼される安全・安心な学校づくり 手段： 1 小小・小中連携及び幼保小連携の推進	1について ○幼保小連絡会議において、情報交換が行われたことはとても有意義であったと感じる。 ●幼保小と中学校とも行くと、よりよい会になるのではと感じた。 ○職場体験は、とても有意義であったが、準備に時間も必要である。 ○かおる幼稚園に1・2・5・6年が訪問して、園児と一緒に楽しく活動することができ、良い経験となった。	3	3	3について ○避難訓練で煙体験を行ったと聞いて驚いた。この時代、いつ何が起こるかわからないので、保護者などもいっそに経験できたらいいと考えました。 ●地域も防災訓練が少ないと思う。学校との訓練は必要だと感じる。 ●防災に関しては、いろいろ学校でも取り組んでいるが、世間では通り魔事件や交通事故、自殺などが多発しているので、命を守る教育もやってほしい。 ○防災教育は、地域と一緒にできるとよいかもしれない。
	2 学校運営協議会の推進	2について ○計画通りに実施することができた。 ●学校運営協議会と学校、地域のつながりがもっとできる会を開催できればと思う。 ○今回、幸っこフェスタにおいて地域の方々、市議会議員、ボランティアの方々に集ってもらい、生駒・幸ヶ丘のこれからについて熟議を行った。この活動により、地域との連携がより深まったように感じる。このような活動を今後、学校運営協議会と連携して行いたい。 ●話合いの継続性と児童の話し合いの中で出た意見を地域や小林市でどれぐらい実現できるかを今後検討していく必要がある。			
	3 防災教育の推進	3について ●備蓄に関して職員の共通理解が必要である。 ○避難訓練は、とても効果的であった。特に火災の避難訓練は、児童に伝えることなく行われ、煙体験まで行ったので、貴重な体験ができた。また、風水害の時には、市役所の防災訓練と連動して行うことができた。 ○災害時と同様の動きで、児童も保護者も命を守る行動ができた。今後は、地域や市と連携してより具体的な避難訓練ができるとよい。 ●本年度は防災教育に関する活動が少なかったため、次年度、西小林中学校区で地域の方々を中心に行う計画を立てている。もっと地域の方々と話す機会をもちたい。			
	4 信頼される教職員の育成	4について ○月1回のコンプライアンス研修を受けることで、意識向上につながった。 ○毎月の研修を受け、常に意識した行動ができています。 ○先生方の意識は高いので、今後も継続して行うことを心がけたい。			
					4について ○今年度は新しく赴任された先生が多く、子どもたちもちょっと戸惑ったところがありましたが、適応能力があり、素晴らしいと思いました。また、いろいろな取組を工夫して行っていて、そこも素晴らしいです。安心して子供を学校に送り出せます。これからもよろしくお願いいたします。

次年度の方向性についての校長所見	学校運営協議委員からは多くの高評価をいただいた。特に、幸ヶ丘太鼓の取組は素晴らしいという声も多くいただいている。目標に向かって頑張り、大きな舞台で発表する経験は児童の成長に大きく影響していると考えことから次年度も積極的に取り組んでいくようにする。また、メディア対応や感染症対策など現在注目されている課題にも積極的に取り組んでほしいという要望もあったことから、家庭と連携して取り組んでいくようにする。防災教育については、教職員からも出たようにそのニーズが高くなってきていることから、次年度西小林中学校区での検討されている取組とあわせて、本校の現状を踏まえ企画、運営していくようにする。
------------------	---